

藤沢市社会教育委員会議
令和3年度6月定例会

議 事 録

日 時 2021年(令和3年)6月21日(月)
場 所 藤沢市役所本庁舎8階 8-1・8-2会議室

令和3年度藤沢市社会教育委員会会議6月定例会

日時： 2021年（令和3年）6月21日（月）
午前10時から正午まで

場所： 藤沢市朝日町1番地の1
藤沢市役所本庁舎8階 8-1・8-2会議室

1 開 会

2 議事録の確認

3 議題

- ・教育文化貢献者感謝会表彰候補者の推薦について（非公開）
- ・次期「生涯学習ふじさわプラン」について（公開）

4 報告

5 その他

- ・令和3年度神奈川県社会教育委員連絡協議会総会の書面開催について（公開）
- ・「第71回藤沢市展」の開催案内について（公開）

6 閉会

(出席委員)

稲川由佳・長田祥男・窪島義浩・越美紀・西尾愛・西村雅代
平野まり・本多清弘・三浦孝一・三宅裕子・山田勉

(事務局)

板垣参事・峯主幹・井出主幹・田高課長補佐・渡邊主任

***** 午前10時 開会 *****

稲川副議長

ただいまから社会教育委員会議6月定例会を開催します。

円滑な進行について、皆様のご協力をお願いしたいと思いますので、
どうぞよろしくお願いいたします。

事務局から欠席委員の確認と会議の成立について報告をお願いいたします。

事務局

藤沢市社会教育委員会議規則第4条によりまして、審議会の成立要件として委員の過半数以上の出席が必要とされています。委員定数15名に対して本日の出席者は11名であることから、会議は成立しますことをご報告申し上げます。

また、川野議長は本日もご欠席ですので、進行は稲川副議長にお願いいたします。

稲川副議長

傍聴者の確認をお願いします。

事務局

本日傍聴者はありません。

稲川副議長

資料の確認をお願いいたします。

事務局

(配付資料の確認)

稲川副議長

議事に入ります前に、5月分の議事録の確認をさせていただきたいと思
います。修正等いかがでしょうか。特段なければ、議事録は確定とさせて
いただきます。

本日の会議について、「2議題」のうち、「(1)教育文化貢献者感謝会表彰候補者の推薦について」は非公開、「(2)次期『生涯学習ふじさわプラン』について」は公開としますが、ご異議はございませんか。

[異議なし]

それでは議題に入ります。(1)教育文化貢献者感謝会表彰候補者の推

薦について、事務局よりご説明をお願いいたします。

***** 非公開議題 *****

稲川副議長

次に、次期「生涯学習ふじさわプラン」について、事務局から説明をよろしくをお願いいたします。

事務局

前回までの協議内容を踏まえ、本日は提言書の最終確認を行っていきます。まず、5月定例会後、改めて意見照会をさせていただき、その際にご協力いただいた委員の皆様につきましては、お忙しい中ありがとうございました。

5月定例会でいただいたご意見とその後の照会でいただいたご意見を集約し、それらを反映させて、改めてまとめ直したものが、本日お配りしている資料です。5月定例会以降の変更箇所につきましては、太線と下線で記載しています。詳細につきましては、稲川副議長からご説明いただきます。よろしくをお願いいたします。

稲川副議長

提言書については、本日の会議をもって確定とさせていただきたいと思えます。皆さんからのご意見をくみ取れるように努めてまいりましたが、様々なご意見がありましたので、すべてを反映するのは難しいところであったと感じております。ただ、その過程が、今回の理念に合致する内容であればうれしく思います。

社会教育委員は独任制ですが、提言は皆さんの総意という形でなされます。多様な意見があつて、議論を重ねてきた意味もあり、よかつたのではないかと思っております。これも学び合う環境であつたからだと思います。

それではまずタイトルについてですが、「藤沢市の生涯学習施策のあり方について～(仮称)生涯学習ふじさわプラン2026の策定に向けて～(提言)」としたいと思っておりますが、何かご意見がありますか。よろしいでしょうか。それでは、表記のとおりで確定とさせていただきます。

次に1ページ、「提言にあたって」の部分ですが、5月定例会で、これまでの議論で出されたキーワードをここで取り上げる、ということを示すことといたしましたので、後段に「特に私どもの審議のプロセスにおいて、キーワードを抽出してまいりました。これらは、今は普遍化していなくても将来計画を定めるうえで重要な鍵概念と考えます。各キーワードは基本目標の小見出しとして示しております」と明示いたしました。

3ページは基本理念になりますが、5月定例会では、多様性への配慮をどこに入れるか、ということが議論になりました。非常に重要なことなので、基本理念に入れたほうがいいのではないかというご意見もありました。それが後半部分の「そうした中、これからの学びや学びあいには、共生社会

への視点が、より大切になってくる。地域において差別や分断を生まず、誰もが学べる環境や理解し支え合える地域づくりのためにも、生涯学習の果たす役割は大きいと考える」と「多様性の尊重、さまざまな学びと学びあい、学び直しの機会など、それらを踏まえながら、2026年までの生涯学習プランの理念を以下のとおり提案する」として、「多様な学びと学びあいから 地域の人がつながり 藤沢の未来を創造する」を基本理念とさせていただきたいと思っています。確定したいと思うのですが、よろしいでしょうか。特にご意見がないということで、ありがとうございます。

また、事務局から1点、「多様な学びと学び合い」の「学び合い」を漢字から平仮名にしたほうがいいのかという提案がありました。特別ご意見がなければ、平仮名に変えたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは平仮名とさせていただきます。

三宅委員よりご提示いただいた多様性への配慮ですが、多様性への配慮には2点あると考えていて、1点目は、既に顕在化している多様性に対して配慮する、いわゆるマイノリティーと言われる立場の人たちに配慮した環境を求めること、2点目は、多様性について学ぶことだと思います。当初、基本理念に「多様性を尊重する」という言葉を入れるべきではないかと考えました。しかし、事務局とのやり取りの中で、多様性は重要なポイントではあるが、基本理念の解説部分でそれを尊重するという形で訴えているところもあるので、「多様」は、手法だったり態度だったり、学びに対する寛容さ、おおらかさのようなものがあつたということで、基本理念には入れず、解説の中に「多様性の尊重、さまざまな学びと学びあい」と入れさせていただきました。そのため、多様性を尊重する社会として、共生社会という言葉を入れることで、基本理念に至るまでの過程を示させていただきました。

4ページの「ICTの活用など柔軟な学習方法の支援」の後半部分は、「実施策は各時点において相応しい施策であるよう見直しを行うなど柔軟に対応してもらいたい」といたしました。本多委員からご意見をいただいておりますので、このような形にしております。

5ページの「コーディネート機能の充実」ですが、5月定例会の際、個人がコーディネーターとして、意識を持って当たらなければならないのではないかというご意見をいただきました。6ページの先頭に「また地域の支え合いには、行政だけではなく、市民自らがコーディネーターとして活動することも必要であろう。コーディネート等のさまざまな学びの機会や学びが活かせる環境整備についても検討頂きたい」ということで、市民のコーディネートに関して文章を少し変えて掲げました。

三浦委員

少し戻りますが、4ページの項目立ての3つ目「交流・学び合い」の「学び合い」も平仮名になるということでもいいですか。

稲川副議長

そうです。

三浦委員

それと同様に、6ページの一番上「また地域の支え合い」の「支え合い」も、統一して平仮名のほうがいいのではないかと思います。

稲川副議長

ありがとうございます。

事務局はいかがでしょうか。「～合い」という表記のところは全部平仮名という形にしていきますか。

事務局

表記はそろえたほうが良いと考えています。「～合い」の表記については委員の皆様にお諮りして、その結果を踏まえてと考えていましたので、資料上は全て漢字表記になっています。先ほど、三浦委員からご指摘いただいた「学び合い」だけではなくて、「支え合い」なども全て平仮名にさせていただきます方向でよろしいでしょうか。

稲川副議長

皆様よろしいでしょうか。ご意見がなければ、「合い」は全て平仮名表記にさせていただきたいと思います。

次に、「多様な主体との連携強化」についてですが、この部分は5月定例会で一番時間を割いて協議していただいたところでした。コミュニティ・スクールについてご意見をいただきましたが、ボリュームを割かず、他と並列する形といたしました。いったんお送りしたのものには「前述のコーディネート機能も重要となろう。藤沢市におけるコミュニティ・スクールはモデル校で試行の状況にあるが、地域はどのように学校を支えていくのか、相互の創意工夫によって、連携・アプローチ等についても生涯学習の観点から考えていく必要がある。様々なチャンネル、必要性を発掘し、学習へつなげる努力を望む」としていましたが、「相互の創意工夫によって」をここに入れると、少し文章が分かりにくいのではないかと感じ、本日お配りした修正案では、「より良い連携は、地域、学校相互の創意工夫によって成されるものである。前述のコーディネート機能も重要となつてこよう。藤沢市におけるコミュニティ・スクールはモデル校での試行の状況にあるが、連携・アプローチなどにもついても、生涯学習としての観点から考えていく必要がある」のほうが文章として分かりやすいのではないかとということで、皆様にお示しさせていただきました。

5月定例会でもいろいろ議論を重ね、皆様のご意見を掲げるべきではないかというご意見もありましたので、コミュニティ・スクールに関して修正をさせていただきました。ただ、2026に向かっていくに当たって、モデル校からどのような形になっていくか分かりませんが、生涯学習においても掲げておく必要がある、削除することはできないということで残しています。

山田委員 真意は伝わってくるなという感じだと思います。動き出すということがすごくはっきりしていない状況の中で、とはいっても、スポットは当たっている前提があるというのは、文章の中からも読み取れますので、私は修正前のほうでいいのではないかと思います。

西村委員 私は、修正案のほうがかすっきりしているしいのではないかと思います。分かりやすいということと、「地域はどのように学校を支えていくのか」という具体性がなくなって、むしろアプローチの仕方を考えていくと広く取れる部分もあったので、修正案のほうがいいと思いました。

長田委員 修正前の形だと、「地域はどのように学校を支えていくのか、相互の創意工夫によって」という文言があることによって、生涯学習の中で、学校側に少し上から目線をお願いしているというスタンスが感じ取れてしまうと思います。こういう活動は、自主的にどうしたらいいのだろうかというところから発展させていくのが趣旨ではないかと思うので、修正案にしたほうがすっきりして受け入れられると感じました。

平野委員 私も修正案のほうがよくないかと思いません。修正前は学校に対して負担をかけ過ぎるという感じでしたので、修正後がよくないかと思いません。

西尾委員 私も修正案のほうがかすっきりして読みやすいと思いました。

三宅委員 私も修正案のほうがいいのではないかと思います。これからどう歩むかまだ分からないところがありますので、そうした意味で言うと、修正案のほうで、いろいろな可能性も含めて、いわゆる生涯学習としての取扱いとして、先へ向かっていけるのではないかと思います。

越委員 もとの文章を読んでいると、やはり学校側や先生方の負担を感じさせるように思うので、私も修正案のほうがいいと感じます。

本多委員 修正案のほうで文章としても分かりやすいし、何を検討してほしいかが分かりやすくなっていると思います。

1点文言の修正ですが、「また、地域と小中高等学校との連携については」となっていますが、「ついても」のほうがいいのではないかと思います。ここだけ別のことを言っているような感じに聞こえるので、企業があつて、公民館があつて、地域、学校と並べるのだったら、「も」のほうがいいのではないかと思います。

窪島委員 修正案については、「より良い連携は」という言葉で始まっているので、その後のところが確かに読みやすいと感じました。

ただ、「様々なチャンネル、必要性を発掘し、学習へつなげる努力を望む」という言葉はそのまま残るとのことですね。

稲川副議長

残す方向で考えています。

窪島委員

分かりました。

そうしたときに、「必要性を発掘し」の「発掘」というのは、相互で発掘していくということによろしいのかということと、「学習へつなげる努力を望む」というのは、子どもたちの努力だけではなくて、どのような読み方をすればいいのか、子どもたちに特化した学習へつなげる努力なのかがわからなかったので教えてください。

稲川副議長

「様々なチャンネル、必要性を発掘し、学習へつなげる努力を望む」という部分は全部にかかっているという認識です。「多様な主体との連携強化」で、大学とか、民間とか、多様な主体は様々なチャンネルということで、小中学校に特化したチャンネルではなく、必要性を発掘して、これだけではなくもしかしたらもっとあるかもしれないという意味で、この文章を書いた形になります。

窪島委員

修正案を読み込んでいったときに、最後の一文が、学校に対して学習へつなげる努力を望む、というように読めた気がしたので、そこを今確認させていただいたところです。修正案のほうが「より良い連携は」と始まっているので、読みやすいという感じがいたしました。

三浦委員

私も修正案のほうの方が分かりやすいと思いました。学校のいろいろな負担などにご配慮いただいたの文言になっていったかと思えますけれども、学校としても、決してニーズがないわけではなくて、地域の力を借りたいというところも多々ありますので、そのように表現していただけるとありがたいと感じました。

稲川副議長

どうもありがとうございます。

そうしましたら、皆様のご意見から修正案のほうにさせていただきたいと思えます。

窪島委員から質問に、「様々なチャンネル、必要性を発掘し、学習へつなげる努力を望む」という言葉を入れる方向で考えているとお答えしましたが、これに関して、皆様、何かご意見がありましたらお願いします。

長田委員

最後の「様々なチャンネル、必要性を発掘し、学習へつなげる努力を望む」はないものだと思っていました。ですから、読んでみたときに、これは何か後から取ってつけたような感じがするので、「考えていく必要がある

う」で終わらせたほうが分かりやすいのではないかと思います。

西村委員

連携は、大学、民間、学校を、「も」でつなげてきたので、最後にまとめの文章が何か必要なのではないかと思います。「様々なチャンネル」から入ると、どこが様々なチャンネルかが分かりにくいので、「こうした様々なチャンネル、必要性を発掘し」みたいな形にすると、最後のまとめになるのではないかと思います。

西尾委員

私は「生涯学習としての観点から考えていく必要がある」だけでいいと思いますが、最後の「様々なチャンネル、必要性を発掘し、学習へつなげる努力を望む」を入れるのであれば、西村委員がおっしゃったように、どういう視点で、誰に向けてというところをもう少し追記していく必要があると思います。

本多委員

具体例を挙げていますけれども、これら以外にもっといろいろなチャンネルだとか必要性を発掘して、学習へつなげる努力を検討してくださいという意味だとしたら、例えば「上記以外にも」とか、「様々なチャンネル」といきなり始まるのではなくて、「以上のとおり」や「このように」といった言葉をつければいいのではないかと思います。あと、「努力を望む」というのが何をしてほしいのかがよく分からなくて、発掘していくような計画に結びつけてほしいとか、プラン2026の策定にどう生かしてほしい、という言葉のほうがいように思いました。適当な表現が見つからないので、この1行の文章はなくてもいいような気もしています。

越委員

文章から「様々なチャンネル、必要性を発掘し」ということ記さなくても十分伝わると思うので、最後の一文はないほうがいいと思います。

山田委員

確かに「様々なチャンネル」というところが加わることで、提言らしさは出ると思うのですが、あえて強調するまでもないと思います。

三宅委員

修正案のほうは、先に広がっていく視点で話をしているので、もう1回、「様々なチャンネル」とすると、戻るようなことになるので、私はないほうがいいのではないかと思います。

それから、「必要性を発掘し」とありますが、必要性を発掘してやっていくのかどうか、そこら辺が少しよく分かりません。必要性があるからやっているのだから、あまりいろいろなことを言わず、未来に向かって、「生涯学習としての観点から」と言ってしまったほうがいいのではないかと思います。

平野委員

修正案を拝見していたときに、この一文はないのだらうなと思っていたので、ないほうがいいと思います。

稲川副議長

ありがとうございます。

今、皆様のご意見を伺い、例えば西村委員がおっしゃってくださったような形もありますけれども、唐突にここに「様々なチャンネル、必要性を発掘し」という形にすると、違和感をお抱きになっているということもよく分かりましたし、それから、三宅委員がおっしゃってくださったように、これから広がっていくというところで、最後にこの文章を入れる必要はないというように思いましたので、最後の「様々なチャンネル、必要性を発掘し、学習へつなげる努力を望む」という文章は削除したいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、削除させていただきます。

次に、7ページ、「藤沢らしさ」の部分を見ていただきたいと思います。前回の定例会でも、ボランティアについてどのように取り上げていくかということがありました。オリンピックは開催されそうな様子ですが、観客を入れるか入れないかが決まっていないので、市民がボランティアとして活動できるかがわからない状況です。

オリンピック・パラリンピックは開催の方向性がほぼ決まっているのではないかとと思われることから、「きっかけに、多くのボランティア活動が藤沢に根付くことは貴重なレガシーとなる」という文章にさせていただいております。もちろんスポーツボランティアだけではなく、いろいろなボランティアが藤沢らしさを形成するということもあります。オリンピック・パラリンピックがきっかけになることで、レガシーという言葉がこのような形で使いました。

5月定例会でお配りした資料では、「藤沢市は他の地域と違い」が上段に来ていましたが、下のほうに持ってきて、「藤沢市は他の地域と違い、現在も人口増である」と入れ替えました。文章の流れから、このようにさせていただきました。

次に、「多様性への配慮」ですけれども、こちらは基本理念に入れさせていただきましたが、基本目標1のICTと同様に、施策につなげていただきたいという思いもありまして、基本目標の中にも掲げることといたしました。また、最初は基本目標2に入れましたが、皆様からいただいたご意見に基づいて、基本目標3に入れるほうが適切だと判断させていただきました。具体的なもの、国籍とか人種とか宗教については、「いかなる人も理解し合い、配慮し、支え合うことのできる地域づくりのために必要な学習環境を整えてもらいたい」という形で、基本目標3に入れさせていただきました。

これに関して、何かご意見がありましたら、お願いいたします。

三宅委員

私はこれで結構だと思います。ありがとうございます。

稲川副議長

続きまして、8ページ、「健康寿命の延伸」です。前回は「スポーツによる」という形にさせていただきましたけれども、定例会の中で、文化とか、

趣味とか、そういったものも健康寿命の延伸に当たるというお話もございました。

また、小見出しに、文化活動という言葉を入れてはどうかというご意見もいただいたのですが、ほかにも活動はあることから、「健康寿命の延伸」という形にさせていただいております。文中に「さまざまな生涯学習活動」という文章を入れ、「スポーツ、文化活動、趣味の活動など、さまざまな生涯学習活動は、生きがいつくり・仲間づくりができ、心身の活性化や健康づくりに寄与していると考えられる。健康の基本となる食について学ぶ機会や、手軽にスポーツに取り組める、文化活動等が楽しめる環境整備、また指導者の育成など、健康寿命の延伸に資する施策を検討頂きたい」という形でまとめました。

これに関して、何かご意見がありましたら、よろしくお願ひいたします。

平野委員

これでよろしいかと思ひます。

長田委員

この文章のほうの方が分かりやすくまとめてあつていいと思ひます。ありがとうございます。

本多委員

内容はこのままでいいと思ひますが、下から2行目に「環境整備」とありますが、これは、手軽にスポーツに取り組めたり、文化活動等が楽しめる環境整備だと思うので、「手軽にスポーツに取り組めたり、文化活動等が楽しめる環境整備」のほうがいいのではないかと思ひました。

稲川副議長

ありがとうございます。

それでは、「手軽にスポーツに取り組めたり、文化活動等が楽しめる環境整備」とさせていただきたいと思ひます。

9ページ、「暮らしの中の環境問題への配慮」ですが、最後の文章のところで言葉を統一するというご意見をいただきましたので、「暮らしの中の環境問題や持続可能な地域づくりなどに関わる学習・活動等が行えるよう、施策の検討を願ひたい」という形にさせていただいております。

皆様にご検討いただいた文言の修正等はここで終了とさせていただきたいと思ひます。この場で提言書を確定とさせていただきたいと思ひますが、ご意見はありますでしょうか。

窪島委員

「健康寿命の延伸」で、日本人の平均寿命は2016年の数字が出ていますけれども、もっと新しい数値のほうがいいと思ひます。

稲川副議長

これは私が調べたものですが、厚生労働省のサイト内で一番新しいデータがこれでした。もしよろしければ、事務局のほうで確認していただき、最新のものがあれば修正するというところでいかがでしょうか。

事務局

平均寿命は最新のものが出ている可能性があります、そこと比較したときの健康寿命ということになると、その大本になる平均寿命との対比で出しているのではないかとも思うので、改めて確認をさせていただきます。

稲川副議長

よろしく願います。もし最新のものがあつたら、差し替えという形にさせていただきますたいと思います。

そうしましたら、提言書はここで確定とさせていただきますたいと思います。皆様、本当にどうもありがとうございました。

数か月にわたって皆様にご意見をいただきてきましたが、全般にわたって、ご感想をお聞かせいただきたいと思います。

西村委員

最初は、会議に出ていろいろと勉強させていただこうと思っていました。幅広いお話を伺うことができたので、提言書づくりというよりも、自分の学習に大変に役に立ったと思っております。どうもありがとうございました。

山田委員

いろいろなところに視点を置いたり、考え方を置いたりということが必要なのだなということを学んだ機会だったと思います。ありがとうございました。

本多委員

最初はどうなるかと思っていたのですけれども、今の計画に対して、我々が感じるということ、言いたいことを言わせていただいたのと、検討の中で、オンラインを使って協議したことも面白かったです。お疲れさまでした。

越委員

最初は皆様からの意見を頭の中で理解するのに精一杯で、ついていくのに一生懸命でした。家に帰ってからも資料をいっぱい読みあさり、何回も同じページに戻ったり、一つ一つの言葉も、スマホで意味を改めて調べたりなどして、今までなかなかない経験をさせていただきました。また、幅広い分野の皆様の意見や考え方を聞くことで、私も大変勉強になりました。藤沢市の生涯学習プランというのは、こうしてたくさんの皆様の力で成り立っているのだなと実感し、非常に勉強になりました。ありがとうございました。

三宅委員

この原稿の執筆にあたって、副議長には大変な時間とご努力と、読み込みを何回もしていただいたのだらうと思います。本当にありがとうございました。

時代を読んで、バランスが取れた、とてもいい提言書になったと思います。自分たちで自画自賛してもしょうがないですけども、いろいろな視

点が入っていて、これからの生涯学習を進めるに当たって、大いに役立つのではないかと考えております。皆様のご苦勞と副議長のご苦勞に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

西尾委員

今回提言書の作成に関わらせていただいて、的外れな意見も言ってしまったかと思うのですが、この会議には様々な分野で活動されている方々がそろっているので、初めて知るお話もあり、私自身も勉強になりました。ありがとうございます。

平野委員

藤沢市の生涯学習に関する計画について、実は十分に存じ上げていませんでした。こうして皆さんがたくさん考えられて、一生懸命つくられたものを、多くの人に知っていただけたらうれしいなと思いました。本当にありがとうございました。

長田委員

前のプラン2016は6年間でした。途中の3年で見直しを行い、生涯学習ふじさわプランとは一体何ぞやというところから勉強を始めるレベルからスタートして、2年かけて現行のプラン2021をつくりました。今回は、ほぼ半年強でランディングさせたということは、皆様の能力が相当高いのではないかと思います。また、それをまとめていただいた議長、副議長の手腕たるやすごいと思います。本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

三浦委員

社会教育という大変間口の広い内容を勉強させていただこうという思いで、この場に参加させていただきました。特に委員の皆様からの様々な視点のご意見がとても新鮮で、そういう見方もあるのだな、そういう考え方は大事だなということが、学校経営に非常に示唆をいただいたという思いです。本当にありがとうございました。

窪島委員

議長、副議長のおかげで、我々は何とかがついていくことができたと思っておりますので、まずは感謝申し上げます。ありがとうございました。

自分は小学校長会から出させていただいています。コミュニティ・スクール関係のところでも、いろいろと意見を言わせていただいて、また、議論させていただいたことに感謝するとともに、皆様が学校教育に対しても大切に考えてくださっていることを心から感謝いたします。

この提言を基に、今度は生涯学習ふじさわプラン2026が出来上がっていくのかと思いますと、その一端に関わらせていただいたことが自分にとって本当に誇りに感じているところです。ありがとうございました。

稲川副議長

ようやくここで確定ということになりました。議長がいらっしやらないので、私が最後にお話することになってしまいますが、皆様からご意見をたく

さんいただいて、それぞれの専門分野とか、深いお考えがあって、「多様な学びと学びあいから」という2026の基本理念を中心として考えながら、それぞれの項目を集約していくことができました。私自身も、そして、きっと川野議長も、深い学びになったと思っております。

先ほども申し上げましたけれども、社会教育委員は独任制ということで、皆様、それぞれのお立場で会議に出席されていますけれども、このような提言書をつくり上げることができたのは、ひとえに皆様のおかげだと思っております。本当にどうもありがとうございました。

では、提言書は確定いたします。次期プラン関連について、今後のスケジュール等を事務局からお願いいたします。

事務局

皆様、本当に長い間ご協議いただきどうもありがとうございました。コロナ禍をこのプランにどう反映させていくかということで、頭を悩ませた状況だったと思います。事務局としても、他の自治体で同時期に作成されているプランを参考に、そのエッセンスを皆様にお伝えすることに努めてまいりました。どこの自治体も計画に反映することに苦労していて、コロナには触れても、それに対応する施策を位置づけるところまで持っていないように感じています。ですので、今回のプランは、果たしてどういう学びを市民の皆様を提供できるか、という1つのチャレンジプランになるのではないかと考えています。

皆様からいただいたご意見を反映して、しっかりと施策に位置づけ、市民の方に読んでいただけるよう工夫しながら、間口が広い生涯学習、社会教育というものを市民の皆様にお伝えしていければと思っております。プラン策定の進行状況は、皆様にお示しさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日、この提言を6月21日付で確定させていただきまして、今後市のホームページにアップをさせていただきます。

提言いただいた後の流れといたしましては、庁内の審議体である生涯学習推進本部会議にこの提言を示すとともに、事務局において基本理念をはじめとした基本目標、施策、最終的には位置づける事業を確定させ、来年の3月に完成版を出すという流れで進めてまいります。まずは来月早々に生涯学習推進本部会議がございますので、そちらに提言をお示しして、基本理念、基本目標のあたりから、まずは確定させてまいりたいと思っております。

今、事務局のほうで考えているのは、基本理念は、皆様からいただいた文言を掲げ、基本目標は、今の3つから増やしてもう少し段階的に組み立てて行く予定です。次回7月定例会のときに皆様にお示しさせていただく予定ですので、どうぞよろしく願いいたします。

稲川副議長

ありがとうございます。

この提言書を踏まえて、この先どのようになっていくかというご説明をいただきましたが、今後の定例会で、基本目標のところもご提示いただけるということです。

続いて、4の報告に入ります。社会教育委員活動の報告につきまして、何かありますでしょうか。特にないようですので、5のその他に入ります。事務局から何かありましたら、お願いいたします。

事務局

令和3年度神奈川県社会教育委員連絡協議会総会の書面開催について、連絡させていただきます。

前回の5月定例会で頭出しさせていただきましたが、県から書面開催用の資料が届きましたので、本日お配りさせていただきました。

6月17日木曜日に横浜市で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に伴い、書面開催となり、幾つか議事にかかる案件があるということで、各市町の社会教育委員にその回答をいただきたい旨、県から依頼をいただいているところです。

お忙しいところ、大変恐縮ですが、配付資料をご確認いただきまして、回答票をご送付ください。ご協力のほどよろしくお願いいたします。詳細は後日ご連絡いたします。

稲川副議長

これに関しては、また皆様のほうにご連絡があるということになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、第71回藤沢市展開催のご案内について、長田委員からよろしいでしょうか。

長田委員

明日から3週間にわたって行われます。昨年は実施できず、一昨年と比べて参加は2割ぐらい減ですが、続けることによって、文化活動の火を絶やしてはいけないということでやっております。ぜひ皆さん、ご観覧ください。

稲川副議長

ありがとうございました。明日から3週間、ODAKYU 湘南 GATEの6階、藤沢市民ギャラリーということです。

それでは、本日の定例会はこれで終了したいと思います。

次回の定例会の日程について、事務局からお願いします。

事務局

稲川副議長、円滑な進行をありがとうございました。委員の皆様におかれましても、本日で提言書確定ということで、約半年間、ご尽力いただきまして、本当にありがとうございます。これからがいよいよプラン本編の策定ということで、本番の作業になってきますが、皆様からいただいた視点、ご意見等を受けて、作成していきたいと思っております。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

次回の定例会は、7月26日月曜日に開催させていただきたいと思っています。時間は10時から正午で、こちらの8-1、8-2会議室ということで、よろしく願いいたします。

稲川副議長

本日はどうもありがとうございました。閉会いたします。

***** 午前11時32分 閉会 *****